

令和5年度 第10回 市長定例記者会見

定例会見

日時：令和5年12月21日（木） 11:30～

会見内容

1. 発表事項

(1) 教育DXに係る新たな取組みについて

①リアルとオンラインを活用した「岐阜市の新しい不登校対策と成果」について

教育委員会 学校安全支援課

②「ぎふMIRAI's（ぎふみらい）」事業における
「日本ICT教育アワード」受賞などについて

教育委員会 学校指導課

③小規模校のこれからの姿「小規模校つながるプロジェクト」について

教育委員会 学校指導課

④更なる働き方改革を推進する「採点支援システム」の成果について

教育委員会 学校指導課

1-（1）教育DXに係る新たな取組みについて

はじめに

1) これまでの取組み

- ・本市では、1人1台タブレット端末の導入により、
オンラインで授業に参加する姿が日常的化されるなど、
学校現場の様々な場面で「教育DX」を積極的に推進。
- ・主な取組み
 - ・「ここタン」による、
子どもたちの気持ちを可視化し、速やかなサポートに繋げる。
 - ・「スマート連絡帳」により、
学校と保護者間の連絡の利便性向上の実現。
 - ・学びの場面では、
授業支援ソフトや電子黒板などを活用し、
個別最適な学び・協働的な学びを実践。
- ・ロイロ認定自治体
本年9月、デジタルを効果的に活用した、子ども主体の学びに関する取組みが評価され、
全国2番目、中核市では全国初の「ロイロ認定自治体」に認定。

本日は、

今年度、新たに動き出した「教育DX」の4つの取組みを紹介。

「ロイロ認定自治体」認定 (R5.9.19)

(株)ロイロ社が認定する自治体のデジタル活用スキル

認定条件

- ・ロイロ認定ティーチャー50名以上
- ・公開研修型勉強会の開催
- ・公開授業の実施
- ・ロイロ認定ティーチャーを育成する
ロイロ授業デザイントレーナー3名以上

「ロイロ認定ティーチャー」 現在 57名認定

認定条件

- ・デジタルを効果的に活用し、他の教員のモデルとなる
協働的な学びの授業案の作成、実践ができる
- ・他の教員の指導ができる。

(1)-①リアルとオンラインを活用した「岐阜市の新しい不登校対策と成果」について

1) 岐阜市の不登校対策

- ・令和3年度に、公立学校として、東海地区初の学びの多様な学校「草潤中学校」を開校。
- ・今年度からは、市内5つの中学校に草潤中学校の分教室ともいえる、「校内フリースペース」を展開。
- ・校内フリースペースの成果

- ・利用者の増加 : 78名(11月) 年度当初の約2倍に増加。
- ・出席日数の増加 : 昨年度不登校生徒の出席日数が増加。
- ・教室での生活 : 4名の生徒が教室で過ごせるようになる。

- ・メタバースを活用したオンライン教室の実証

教育ICT推進の連携協定を結ぶ

「NTTコミュニケーションズ株式会社」の協力を得て、

昨年度より、メタバースを活用したオンライン教室の実証を、計8回実施。

延べ276名の児童生徒が参加。

特に、今年度の第1回が、112名、

第2回が、80名の参加があり、一気に定着。

- ・実施方法

- ・アバターとニックネームでの参加とし、
- ・授業ルーム、フリートークルーム、相談ルームを設置。

校内フリースペース実績

利用者

37名(4月) → 78名(11月)

出席日数が増加した生徒(昨年度比)

28名

教室で過ごせるようになった生徒

4名

2) 成果

- ・実証後アンケート

- ・児童生徒 : 「こういったオンライン教室を設立してほしい」

- ・保護者 : 「子どもを参加させたい」。

「継続して通えると思う」と、多くの肯定的な意見。

実証実績

R4年度

	参加者
第1回(11月1日)	13名
第2回(11月21日)	26名
第3回(12月12日)	17名
第4回(1月18日)	5名
第5回(2月8日)	9名
第6回(3月3日)	14名

R5年度

	参加者
第1回(6月20日)	112名
第2回(6月23日)	80名
第3回(1月23日予定)	
第4回(1月25日予定)	

3つの部屋の設置

- ・授業ルーム : 身近なものから学ぶ30分程度の授業
- ・フリートークルーム : 何人かで話をしたい人向けの部屋
- ・相談ルーム : 1対1で話をしたい人向けの部屋

アンケート結果(R5年6月実施時)

児童生徒(回答者37名)

- ・こういったオンライン教室を設立してほしい 100%

保護者(回答者28名)

- ・子どもを参加させたい 89%
- ・継続して通えると思う 79%

(1)-② 「ぎふ MIRAI's 事業」における「日本 ICT 教育アワード」受賞などについて

1) 背景

- ・昨年度の全国学力・学習状況調査において、「将来の夢や目標を持っているか」の問いに対し、

肯定的な回答は、・小学生：約 81%

・中学生：約 67%

全国学力・学習状況調査 (R4 年度)

将来の夢や目標を持っている

岐阜市 全国平均

・小学生 81.2% 79.8%

・中学生 67.3% 67.3%

- ・子どもたちに、将来の夢や目標を持ち、希望あふれる未来を切り拓いて欲しいという願いから、今年度より、生まれ育った岐阜市を教室にして、人・もの・ことから学ぶ、「ぎふ MIRAI's (ぎふみらい)」をスタート。

2) 取組

- ・「ぎふ MIRAI's (ぎふみらい) チャンネル」

岐阜市の各分野で活躍する方々から、

市内の全児童生徒が、同時に、オンライン双方向授業で学ぶ取組み。

- ・実施内容

初回は、私と中学生との対談。

その後、川漁師、若き起業家、岐阜和傘職人など、様々な方が登場。

- ・この仕事に就いた理由や、仕事に対する想いを聞き、
- ・子どもたちが興味をもったことについて質問し、
- ・あるいは、仲間と感じたことについて話し合うなどの活動を通じ、

全ての児童生徒が、岐阜市で活躍する人の生き方に直に触れ、

自分の生き方をつくり出す機会を設けた。

3) 成果

- ・児童生徒へのアンケート

・全体の約 9 割：「岐阜市への理解が深まった」

・小学生の 7 割以上、中学生の 8 割以上：

「自分の夢や目標、なりたい自分や生き方などについて考えるきっかけになった」

- ・「日本 ICT 教育アワード」優秀賞受賞

全国の首長で構成する「全国 ICT 教育首長協議会」が主催。

全国 ICT 教育首長協議会

- ・平成 28 年に設立した ICT 教育を推進する
全国約 130 自治体の首長で構成する協議会

日本 ICT 教育アワード

- ・全国的に GIGA スクール構想が推進されている中、首長や教育長が積極的に教育 ICT 環境整備に取組み、地域創生や学校活性化につながる優れた事例を顕彰するとともに、その事例を広く全国に周知し、教育 DX をさらに推進するコンテスト
- ・今年度 84 自治体が応募し、16 自治体が各賞を受賞

(1)-③ 小規模校のこれからの姿「小規模校つながるプロジェクト」について

1) 背景

少子化の進展により、学校の小規模化が進む中、小規模校においては、

- ・人間関係が固定化し、
- ・多様な意見に触れる機会が少ない

などが課題。

2) 取組

・「小規模校つながるプロジェクト」

この小規模校の課題を、デジタルとリアルを組み合わせることで解消しようという取組み。

各校の児童数 (R5.5.1 現在)

網代小学校	49名	
方県小学校	75名	
三輪北小学校	89名	計 213名

・対象校

3つの小規模校（網代小学校、方県小学校、三輪北小学校）

・デジタルの取組

この写真のように、オンラインで3校を繋ぎ、

- ・それぞれの学校にしながら、あたかも1つの教室にいるかのように、リアルタイムで他校の仲間と意見を交流し、

これまでにない新しい意見に触れることで、見識を広げている。

・リアルの取組

3校合同の野外学習で、

1つの学校が「なまえ鬼」を企画し、3校の児童が一緒になって、

名前を呼び合いながら、鬼ごっこをするなど、交流を深めている。

これにより、初めて出会った相手にも、積極的に関わられる力が芽生えている。

活動例

オンライン	・1～6年生全ての学年で1回/月以上実施 主に国語、算数、道徳の教科
リアル	・野外学習（5年生） 鵜飼観覧（5年生）

3) 成果

・児童からは、

「3校一緒に学習すると、仲良くなれるし、いろんな意見が出て、学習に興味湧く」

「はじめての人たちと交流した時には、ドキドキしたけれど、

他の学校の子と一緒に学習できるのは楽しい」

「いつも話している人だけでなく、初対面の人とも関わりをもつことは、

将来も役にたつと感じた。」

- ・ **より専門的な指導**

3校を一つの学園と見立てることで、
教員配置数の少ない小規模校においても、
各教科の免許をもった教員を揃えることが可能となり、
より専門的な指導に繋がると考える。

- ・ この取組は、

小規模校のこれからの**モデルケース**になると期待。

(1)-④ 更なる働き方改革を推進する「採点支援システム」の成果について

1) 背景

・課題

学校で行う**定期テストなどの採点**は**手作業**。

テスト結果は、子どもたちの**成績や進路**に関わることから、**丁寧かつ誤りのないよう**配慮が必要。

⇒**多くの時間**を要していた。

2) 取組

・**本年6月**に**全中学校**へ「採点支援システム」を導入。

・採点作業

生徒の**答案用紙**を**データ化**してシステムに取り込むことで、

・**選択問題**：自動採点。

・**記述問題**：1つの問いに対する**生徒の解答**が**一覧表示**され一括して採点可能。

⇒**効率化**が図られる。

・実績

・延べ**116,497枚**の採点処理

・中学校全校で**4,854時間**、学校あたり**平均220時間**の削減。

・分析資料出力

採点作業が終了した時点で、**合計点**などを**自動集計**し**分析資料**出力。

・生徒一人ひとりの**成績表**。

・学年やクラス全体の**得点状況**が**把握**できる**分析資料**。

・採点作業の**効率化**により、

子どもたちに向きあう**時間の確保**ができることに加え、

採点結果を**様々な観点**で**可視化**できることにより、

エビデンスに基づく**授業改善**や**個に応じた指導**の**充実**が図れるようになった。